

【オートモビル工学科・工業科目】

各教科・科目	学 年 類 型 必履修・選択	標準 単位 数	1 年次(令和 6 年度入学生)			2 年次(令和 5 年度入学生)			3 年次(令和 4 年度入学生)		
			必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択
			工業	工業技術基礎	3~4		4 (4)				
	課題研究	3~4							3 (3)		
	自動車実習	6~12				4 (3)				2 (2) ②	
	自動車製図	2~8									
	工業情報数理	2~4		2 (2)							
	自動車工学	4~8		3 (1)		2 (2)	2 (1) ②		2 (2)	2 (1) ②	
	自動車整備	4~8					2 (1) ②			2 (1) ②	
	通信技術	2~6					2 (1) ※○			2 (1) ※○	
	ハードウェア技術	2~8					2 (1) ※○			2 (1) ※○	
	デザイン史	2~4								2 0	
	自動車整備実習	6~12					8 (2) ②			8 (2) ②	
	自動車製作実習	6~12					4 (2) ③			4 (2) ③	
	オートモビルCAD演習	2					2 (1) ③				
	カーメカニズム	4								4 (1) ③	
	加工技術応用	2					2 (1) ※			2 0 ※	
	労働と安全	2					2 (1)				
	プロダクトCAD演習	2					2 (1)				
	3D CAD 演習	2								2 0	
	自動車に関わる法令	2								2 0	
	基礎自動車工学	2								2 (1)	
	屋内配線施工技術応用	2					2 (1) ※○			2 (2) ※○	
	基本情報処理技術	2					2 (1)			2 (1)	
	電子工作演習	2					2 (1) ※○			2 (2) ※○	
	色彩演習	2					2 (2)			2 (1)	
	デザイン	2					2 (1)			2 (1)	
	グラフィックデザイン実習	2					2 (2)				
専門教科・科目単位数計				9			12~18			18~25	
総合的な探究の時間				0			0			0	
ホームルーム活動				1			1			1	
生徒一人当たりの履修単位数計				34~39			29~35			22~44	

【工学科・令和5年度入学生の習熟度別授業・少人数指導授業等】

習熟度別授業	<p>(1) 数学Ⅰ(4単位)は1学級2展開 (2) 英語コミュニケーションⅠ(1年次3単位)英語コミュニケーションⅡ(2年次2単位、3年次2単位)は1学級2展開</p>
少人数指導授業	<p>(1) 言語文化(2単位)は1クラス2展開で実施。 (2) 体育(1年次:3単位、2年次:2単位、3年次:2単位) 1年次:1クラス2展開 2年次:1クラス2展開 3年次:工業科とデュアルシステム科を併せて、2クラス3展開×2+1クラス2展開=8講座 (3) 「働くこと生きること(1単位)」は、チームティーチング。 (4) 工業:工業技術基礎(4単位)、課題研究(3単位)及び実習科目は、1クラス3~5展開 工業情報数理(2単位(プロダクトのみ3単位))、機械製図(2~3単位)、自動車製図(2単位) 2, 3年次の学校必修の自動車工学(2単位)、 電気回路(1年3単位)、電気製図(2単位)、電子回路(2単位)、 デザイン製図(2単位)、デザイン実践(2年2単位及び3年2単位)、 デザイン材料(2年2単位及び3年2単位)、は1クラス2展開</p>
備考	<p>(1) 1単位時間は45分とする。 (2) 卒業認定修得単位数は、74単位である。 (3) 2年次より次の「科目群(履修パターン)」のいずれかを選択する。 ①プロダクト工学、②自動車整備、③自動車製作、④電気システム、⑤コンピュータシステム、 ⑥ビジュアルデザイン、⑦プロダクトデザイン (講座数)の右①~⑦は、それぞれの履修パターン別科目であることを指す。 (4) 「情報Ⅰ」(2単位)は、1年「工業情報数理」(2単位)によって代替履修する。 (5) 「総合的な探究の時間」は(3単位)、3年「課題研究」(3単位)によって代替履修する。 (6) ○は2・3年次同時履修。 (7) ※は履修機会が1度の科目。 (8) ★は在京外国人等対象生徒教科科目。週時程外の放課後に設置する。 (9) 論理国語と英語コミュニケーションⅡは2年次(2単位)及び3年次(2単位)の4単位の学習をもって、科目の履修となる。 (10) 論理国語は現代の国語及び言語文化を履修した後に履修させる。 (11) 日本史探求及び世界史探求は歴史総合を履修した後に履修させる。 (12) 倫理及び政治経済は公共を履修した後に履修させる。 (13) 数学Ⅱと数学Ⅲを履修する場合は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲの順に履修させる。 (14) 数学Aを履修する場合は、数学Ⅰと並行してあるいは数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (15) 数学Bを履修する場合は、数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (16) 物理、化学については、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させる。 (17) 芸術科目については、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に履修させる。Ⅲを付した科目は、Ⅱを付した科目を履修した後に履修させる。 (18) 外国語の科目において、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目の履修後に履修させる。 (19) 日本語理解については、1年次の修得者に対して日本語検定3級取得には1単位、2級以上取得には2単位の増加単位修得を卒業時に認める。 (20) 特別の教育課程(日本語指導)は指導の対象の生徒のみ実施する。 (21) 自立活動は、通級による指導の対象生徒のみ実施する。 (22) 東京都立工芸高等学校において拠点校実習を実施(ホームページデザイン・インテリア・鋳造について、年間で4時間)。</p>